



Webカメラを設置して「見える化」を図った五農高の水田
地下かんがい式の水田から収穫されたお米は、「お米甲子園」で3年連続受賞しています



青森県五所川原市

—— 今回の訪問先 ——

青森県立
五所川原農林高等学校



青森県立五所川原農林高等学校の正門
校内には環境健康フィールドと呼ばれる広大な学校農場が広がっています



サンリオのキャラクター「マイメロディ」と、五農高のお米「つがるのマン」がコラボレーションした商品が人気を呼んでいます

生産者と消費者をITでつなぐ 新しい農業を夢見て

1902(明治35)年、北津軽郡立農学校として設立された青森県立五所川原農林高等学校(以下、五農高)は、国内でも屈指の歴史と伝統のある農業高校です。文部科学省の経営者育成農業高校に指定されており、大規模農業のスペシャリストの育成にも力を入れています。

現在、五農高が地域社会の一員として、積極的に取り組んでいるのが「五所川原6次産業化推進協議会」です。「6次産業化」とは、第1次産業である農

林水産業を、生産だけでなく、加工や流通・販売へ展開し、経営の多角化を進めるということで、農林水産省も推進している取り組みです。同協議会は、五農高が事務局となり、地元生産者や加工・販売業者、県内外の企業、大学、そして五所川原市や青森県などが連携し「健康なまちづくり」の実現をめざしています。

同協議会の特にユニークな活動が、五農高が関わっているマイファームセンターと田畑輪換実証実験、生徒が中心となった新製品の開発です。

マイファームセンターは、生産者と消費者をITでつなぐという先進的な取り組み。五農高の水田やりんご畑などにWebカメラや気象センサー、通信機器を設置し、日射量や温度・湿度などのデータをクラウド上のセンターに蓄積し、それらのデータが「五農高アグリコミュニティ」(<http://gonou.gnu.saas.secureonline.jp/Agriculturist/>)というWebサイトで公開しています。こうした生産情報や地域情報の「見える化」のほか、Webサイトでのコメントのやりとりを通じ、マイファームセンター会員と五農高の生徒が双方向コミュニケーションを行い、「顔の見え

る農業」を実現しています。この取り組みが高く評価され、経済産業省・文部科学省共同実施の第3回「キャリア教育推進連携表彰」奨励賞を受賞しました。

一方、田畑輪換実証実験は、水田にホタテの貝殻を利用した地下かんがいを導入することで、水稻と大豆を交互に栽培できるようにし、また雑草の抑制や農薬の軽減、水質浄化を図るというもの。持続可能な環境保全型農業をめざした試みです。

ほかにも五農高の生徒は、生産・加工・販売を行う団体と協力し、「みそドーナツ」などの新製品の開発に取り組んで

います。さらに、「(仮想)街づくり五農農業会社」*の社員として、新製品をはじめ、授業や校内活動で育てた野菜の販売活動にも携わるなど、6次産業に対応する能力の育成も図られています。

近年、同協議会では、赤いりんごのブランド化を核として、「スペシャルG生産加工クラブ」という画期的な取り組みも進行中です。生徒たちに「農を楽しむ」ことを学ばせる一方、農業分野でのイノベーションを創出する五農高。農業の再生にとどまらず、地域の再生に向けて、今後も大きな役割を果たしていきます。

* 五農が設立した仮想の会社。生徒が社員となり生産・製造・販売を行っている



5月に学科対抗で行われる全校田植え競技会では、女子生徒の早乙女*姿も見られます
*田植えをする女性を表す言葉



「五農高アグリコミュニティ」へのブログ記事投稿は、「顔の見える農業」につながっています



ジャム製造などの農産物の加工実習を通じて、生徒は「安全・安心な食」について学びます



津軽鉄道・五所川原駅内の「街づくり五農農業会社」での販売実習も、生徒の重要な体験の場となっています



私たちの学校のイチオシ!

高さ20mを超える大きな立佞武多は壮観です

当市の夏の風物詩といえば、1998年に約80年ぶりの復活となった、「五所川原立佞武多」です。弘前などの「ねぶた」とは違って、見上げるような高さが大きな特徴で、大きいものは7階建てのビルを越すほど。五農高は2002年から参加しており、毎年15mほどの立佞武多を製作しています。「ヤッテマレ! ヤッテマレ!」の掛け声の中、巨大な山車が街の中心を練り歩き、市民や観光客を魅了します。



青森県立五所川原農林高等学校 教諭 環境健康フィールドセンター長 (農場長)
三上 浩樹 さん



拠点 DATA

青森県立五所川原農林高等学校

所在地 青森県五所川原市大字一野坪字朝日田12の37
設立 1902年1月31日
学科内容 食品科学科、生活科学科、環境土木科、森林科学科、生物生産科
<http://www.seihoku.asn.ed.jp/~ah/>



「消費者と直接つながることで、農産物の価値を高めるとともに地域の課題解決にも取り組みます」



農業の担い手の高齢化をはじめ、人口減少など、五所川原を取り巻く地域環境には厳しいものがあります。そうした社会問題を解決しようと、五所川原6次産業化推進協議会に加え、私たちは「スペシャルG生産加工クラブ」を設立しました。ITを駆使し、生産者と消費者をダイレクトにつなぐ試みで、独自の厳しい品質基準をクリアした農産物をクラブが買い取り、ダイレクトマーケティングの手法で消費者へ届けるというものです。農産物のブランド化のほか、生産者の所得向上、地元の雇用創出につなげることを大きなねらいとしています。来年度に法人化を予定しており、市民参加型でこのグランドデザインを具体化していくことをめざしています。



青森県立五所川原農林高等学校 校長 佐藤 晋也 さん